

出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 28 年 5 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

鹿児島大学病院

研修医 大塚 彰行 2016 年 4 月

鹿児島大学病院初期研修医 2 年目の大塚彰行と申します。

2016 年 4 月の一ヶ月間、地域医療として、出水総合医療センターで研修をさせていただきました。

自分は鹿児島市出身ですが、出水市を訪れるのは今回が初めてでした。印象としては鶴と新幹線が通りかかるという印象くらいでした。出水にきて食べ物もおいしく、景色もきれいなところがたくさんありました。4 月でしたので桜も満開でとても景色が綺麗だったのが印象深かったです。

1 か月の研修では出水総合医療センター、野田診療所、高尾野診療所、上場診療所、出水保健センターで研修させていただきました。野田診療所、高尾野診療所では外来と訪問診療を経験させていただきました。患者さんの中には 90 歳代の方が何人もいらっしゃって、元気に歩いてこられて先生たちと楽しそうに話をされて今から散歩して帰ると言っていて帰られて行かれる方などいてそのような方の健康を支えているんだなと感じました。また、先生方の診療で印色々勉強させていただいたのはもちろんですが、患者さんの家族構成などの背景を理解されていたのが印象的でした。介護が必要になった際の家族のサポートが得られるかなどを把握されていたのが、在宅診療を行っていく際に必要なのだなと感じました。

出水保健センターでは 3 歳児健診を見学させていただきました。カンファでは健診に来た子供で気になったポイントをスタッフで共有し子育ての支援を行っているのを知りました。

出水総合医療センターでは総合内科を回らせていただきました。外来の診察をさせて頂き、様々な症状で来られる患者さんの診察から必要な検査の選び方、検査に対する評価の考え方、患者さんへの説明のポイントなど様々なことを学ばせて頂きました。また、多職種連携で様々な部署を見学させていただきました。自分が普段見えていないところで多くの方が患者さんが入院してから退院するまでにサポートされていることを改めて知ることができました。

出水総合医療センターで救急外来、野田診療所での一次救急外来も経験させて頂き、限られた環境で判断をすることなど普段とは異なった環境を経験することができました。

出水の研修を通じて、自分がこれまで研修を行ってきた環境とは違った中で医療を行えたこと、多職種の方の仕事を体験させていただいたことは大きな糧になりました。これから地方医療に携わる際にこの一カ月で得られた経験を活かしていこうと思います。一か月と短い期間ではありましたが、多くのことを経験させて頂き本当にありがとうございました。

出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 28 年 6 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

福岡大学病院

研修医 麻生 頌 2016 年 5 月

福岡大学病院地域医療研修プログラムとして5月にお世話になりました、研修医2年目の麻生 頌（アソウ ショウ）と申します。1ヶ月間という限られた期間の中で、出水総合医療センターを中心に、高尾野診療所・野田診療所・保健センター・上場診療所にて研修させて頂き、大変お世話になりました。関係者の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

私は福岡県出身で、中学高校は長崎県・大学は愛知県と転々としており、また趣味の旅行で各地に遊びに行きましたが、何故か九州の中で鹿児島のみを踏んだことがなく、研修も勿論のこと、研修外の活動も楽しみに出水を訪れました。最初の印象としては、朝に道を歩けば学生さんが挨拶してくれるし、焼酎は安いしで、本当に素晴らしい町だと感じました。

さて、研修についてですが、何もかもが目新しく印象深いものでしたが、字数も限られておりますし一部分をピックアップさせて頂きます。

まずは、各々3日間しか研修できませんでしたが高尾野・野田診療所です。高尾野診療所では、これまでの1年間で経験した数倍の外来を、たった3日間で経験させて頂きました。野田診療所でも同じく、数倍の手技を経験させて頂き、非常に濃厚な研修をさせて頂きました。たった6日間の研修でしたが、私の今後へのモチベーションを上げて下さった、非常に有意義な研修でした。

院内研修では消化器内科研修を中心に、看護・臨床検査・臨床工学・リハビリテーション・医療安全管理・地域医療連携などの講義や体験をさせて頂きました。想像していたよりも多くの内視鏡検査や治療を、限られた医療スタッフで素早く、しかし正確に行われていたのが印象的でした。また、お忙しい中でも検査手技や結果の判断方法を丁寧に教えて頂き、非常に勉強になりました。また、各部署の講義・体験では改めて他職種の実際の現場を知ることができ、今後の医師としての生活に活かすことのできる非常に有意義なものでした。

上場診療所では本当のへき地医療を垣間見ることが出来ました。問診と身体診察の重要性を再確認しただけではなく、患者家族から果ては診療所に訪れない地域住民の方にまで配慮されていたことを目の当たりにし、所変われば必要とされる医療の形も変わるということを知りました。また、へき地の高齢者の方は元気な方が多い印象で、その裏には陰ながら努力されている医療関係者が存在することを知り、感動を覚えました。

最後になりましたが、大変お忙しい中、時間を割いて丁寧に指導して下さいました皆様方に、重ねて御礼申し上げます。今後の医師人生を変えるような体験を、たくさんさせて頂きました。今度は、鶴を見ることが出来る時期に伺いたいと思います。

出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 28 年 6 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

九州大学病院

研修医 大崎 佑一郎 2016 年 5 月

初めまして、九州大学病院研修医 2 年目の大崎 佑一郎と申します。2016 年 5 月に地域医療研修として、一か月間、出水総合医療センターを中心に地域医療研修をさせて頂きました。

私は宮崎県延岡市の出身であり、将来は地元での医療に従事したいと思い、似たような土地柄の出水での地域医療研修を希望しました。私が小学校 4 年生のころ、父親の転勤の都合で鹿児島市に住んでいた際に、ツルを見ることができる場所があると聞き、母に連れられて、はじめて出水を訪れました。研修時期が 5 月ということで再びツルをみることはできませんでしたが、それから、約 18 年後にこうして、また出水で研修をさせていただくことができましたことを大変うれしく思います。

研修内容としましては、院外研修として、野田診療所での診察業務、高尾野診療所での診察業務、上場診療所への往診、出水保健所での検診等に從事させて頂きました。

院内研修では、出水総合医療センターで小児科を中心に研修させて頂きました。また、救急外来での救急車対応や多職種連携ということで医療安全、地域医療連携、リハビリテーション、臨床検査、臨床工学、看護部などの様々な部署でお世話になりました。

診療所では、外来診察を行う機会を頂き、問診や身体診察を中心に勉強させていただきました。また、心エコー、頸部エコー、腹部エコー、内視鏡検査、外傷の創処置等を勉強させていただきました。先生方は患者さまとの長年の関係を築いておられたので、診察がスムーズにいったように思えました。しかし、私は、初対面の患者さんとの接し方からでした。多くの患者様方はここ数年、研修医が診察に来ていることを知っておられたので、問診や診察に協力して頂き、大変うれしかったです。普段は外来診療を経験する機会がないので、大変勉強になりました。また、出水という土地柄でしょうか、農作業に従事されている方、お酒を飲まれている方が大変多かったように思います。私も、一か月間の研修期間中に何度もお酒を飲む機会がありましたが、飲酒量の多さに驚きました。両診療所の先生方の指導に従って、生活されている方々をみて、両診療所の重要性に気づかされました。上場診療所への往診業務は、自分の父親が僻地医療に従事していたこともあり、非常に貴重な体験となりました。二週間に一度しかない診察日を待っていらっしゃる方々がいることに気づかされました。こうした方々をどのようにサポートしていくか、今後の取り組み方を考えさせられました。

出水保健センターでは、三歳児検診などの業務に参加させて頂きました。出水市での育児サポートへの取り組みを勉強させて頂きました。

院内研修では、小児科を中心に研修させて頂きました。小児特有の疾患を勉強させていただきました。成人の方とは違った見方で診療しなければならないことを実感しました。また、多職種連携ということで、出水総合医療センターを支える様々な職種の方々の仕事を体験させて頂きました。病院は色々な方々の仕事があって成り立っていることを改めて実感しました。

最後になりましたが、ご多忙の中ご指導いただいた先生方、コメディカルの方々、スタッフの方々、診察させていただいた患者の皆様、誠にありがとうございました。この経験を生かして、地元での診療に生かせるように頑張っていきたいと思っております。

出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 28 年 7 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

北九州市立医療センター

研修医 香月 比加留 2016 年 6 月

北九州市立医療センター初期研修医 2 年目の香月比加留です。2016 年 6 月に地域医療研修として出水市で研修させていただきました。

前半の 2 週間は野田診療所、高尾野診療所、上場診療所、出水保健センターで研修させていただき、後半の 2 週間は出水総合医療センターで研修させていただきました。

各診療所では、上部・下部消化管内視鏡検査や腹部エコー、心エコーなどの検査、外来および往診による慢性疾患のフォローを経験しました。検査オーダーを出すだけになっていた検査を下手なりに自分で出来るようになったのは、良い経験でした。また、一次産業ならではの外傷を診る機会もあり、大変勉強になりました。往診では、正直自分の運転では行きたくないような場所へ行き、慢性疾患のフォローアップ中心に診察しました。終末期の患者のご家族に対し「ここで急変した場合、おそらく救急車も間に合わない」といったインフォームド・コンセントをされていたことは印象的でした。改めて、病院へ簡単にアクセスできる環境は恵まれているのだと実感しました。また、高齢の方も多く、診療所の往診は地域の医療を支えている為に必要不可欠だと思まいした。

出水保健センターでは、母子健康相談や 3 歳児健診を経験させていただきました。多くの方が、思っていた以上に悩みを抱えていることを知りました。現場の方々はうまく悩みを聞き出し、適切なアドバイスをしており、育児で悩みを抱えている母親にとって、大変重要な役割を果たしている場所だと思いました。また、健常な 3 歳児だけをまとめて診るというのも、面白い経験でした。

出水総合医療センターでは、外科を中心に研修させていただきました。様々な手術に参加させていただき、大変勉強になりました。今後の外科研修で違いを実感したいと思います。その他にも地域医療連携室、臨床工学科、臨床検査科、回復期病棟、リハビリテーション技術科で研修させていただきました。オーダーした検査の結果が出るまでの流れを改めて知り、また医師とは違う視点で患者をみることができ、貴重な経験となりました。より良い医療を提供するためには多職種での連携が重要であることを再認識できました。

最後になりましたが、ご多忙の中ご指導いただいた先生方や関係者の皆様、診察させていただいた患者の皆様、本当にありがとうございました。1ヶ月と短い期間ではありましたが、地域に根付いた医療の重要性とその実現の難しさを実感できた貴重な時間となりました。この地で経験したことや学んだことを無駄にならないように、今後も勉強していきたいと思います。

出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 28 年 7 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

福岡大学病院

研修医 高岡 千容 2016 年 6 月

福岡大学病院初期研修医 2 年目の高岡千容と申します。地域医療研修プログラムとして 6 月にお世話になり、1 ヶ月間という短い期間の中で、出水総合医療センター、高尾野診療所・野田診療所・保健センター・上場診療所にて研修させて頂きました。各診療所の先生方やスタッフの方々のおかげで充実した研修となりました。本当にありがとうございました。

現在私は福岡大学病院で研修しており、訪問診療などを行う地域医療とはやや距離があります。将来は家庭医として地域医療に携わりたいと思っており、今回出水医療センターでの地域研修を希望しました。

高尾野、野田診療所では 3 日間程度の研修でしたが、猫咬症による排膿処置、ビール瓶による切創の外科的処置、心エコー、腹部エコーを教えていただきました。ビール瓶による切創を縫合しましたが、抜糸時にきれいに皮膚が合わさっていたのを見てうれしかったです。心エコー検査はほとんど自分で施行することがなかったので、実際に 3 例ほど検査をさせてもらい、非常に勉強になりました。外来での診療もほとんどしたことがなかったので、時間内で患者さんをみていく大変さを実感しました。特に紙カルテだったので初めは慣れませんでした。

上場診療所にも行かせていただきました。初めて上場診療所に行った時には、こんなところに診療所があるんだ！と驚きました。ほとんど医療器具のない診療所では、緊急で対処しなければいけない病態かをバイタルサインなどで判断する必要がありますが、私は自信がまだまだありません。病歴や身体所見の取り方をもっと学ぶ必要があると感じました。

院内研修では循環器内科研修を中心に、看護・臨床検査・臨床工学・リハビリテーション・医療安全管理・地域医療連携などの講義や体験をさせて頂きました。循環器科での研修中にも検査技師さんに心エコーを教わりながら何人かの患者さんにエコーを当てさせて頂きました。臨床検査室で、検査技師さんのずっと顕微鏡をのぞいて抗酸菌を探す姿はとても大変そうであり、今後何か検査を出すときは感謝の気持ちを持ちたいと思いました。他にも様々なメディカルスタッフの方々と関わらせていただき、とても他職種間が近く、話しやすいなと感じました。

今回の研修を通して、地域医療とは何か、地域医療ではどういったことを行っているのかのみならず、他のメディカルスタッフの方々との交流も勉強になりました。在宅医療や病院での診療を支えているのは、ほとんどが看護師、薬剤師、ケアマネージャーなどの他職種だと感じました。医学知識、技術にばかり目を向けることが多かったのですが、今回の研修を通して患者さんを取り巻く全体像を学ぶことができました。

今後、家庭医を目指す上で大変貴重な経験、体験ができたと思っています。今までリハビリ目的に転院して頂くことが多く、あまり在宅医療に関して深く考えたことはありませんでした。今後はもう少し在宅医療や介護のことなども考えて日常診療を行いたいです。

出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 28 年 8 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

鹿児島大学病院

研修医 石戸 秀明 2016 年 7 月

鹿児島大学病院初期臨床研修 2 年目の石戸秀明と申します。平成 28 年 7 月から一ヶ月間にわたり出水総合医療センターを中心に出水地域の関連施設にて地域医療研修を行いました。

研修医 1 年目は奄美大島にある県立大島病院で研修したこともあり、地域医療研修は離島医療よりも過疎地域における医療の在り方を学びたいと思い魅力的な研修プログラムのある当院を選択しました。

鹿児島大学出身ですが、出水市に滞在したことはなく不安もありました。が充実した研修を行うことができましたのでここに報告します。

7 月は例年よりも梅雨明けが遅く記録的な豪雨となりました。鹿児島市内から長い山道を運転し宿舎へ辿り着くのも一苦労だったのを思い出します。野田診療所では内村先生の熱い指導のもと初めて大腸内視鏡をしましたが進行大腸癌を発見するという貴重な経験をしました。内村先生はもともと循環器内科の先生でおられるようですが、町民の皆様が健康で暮らせるよう腹部エコーや内視鏡検査も積極的にを行い早期発見に努めておられる姿にかかりつけ医の役割を学びました。

高尾野診療所では西元寺先生、長谷川先生のご指導のもと午前中は外来診療をしました。慢性疾患を抱えておられる高齢の方が多かったように思いますが、自転車転倒などの外傷の方も多く地域の診療所は外科内科領域を問わず初期診療にあたる能力が必要であることを学びました。

上場診療所では特別な検査は行えないからこそ問診、身体診察、バイタル測定が重要であり、医療の原点を見つめなおすきっかけとなりました。

出水保健センターでは 3 歳児健診を見学しました。一見、健常に発育しているお子さんの中から発達障害などを早期に拾い上げ適切な支援につなげていくことは重要だと思いました。

総合内科では吉井先生の御指導のもと外来診察や救急外来の初期診療に携わらせていただき、手術室でペースメーカーの電池交換の介助もしました。適切な診断には“VINDICATE”に沿って鑑別診断を挙げる訓練を教わりました。今後、診療に当たる際に活用しトレーニングを重ねたいと思います。

夜間一次救急では夏かぜが多かったように思いますが、出水地域においても救急医療が一次、二次と分かれていることは出水地域の医師の負担軽減に重要ではないかと感じました。

最後になりましたが、出水総合医療センター、野田診療所、高尾野診療所をはじめ、出水地域における地域医療研修に携わっていただきました多くの方々に心よりお礼を申し上げます。1 カ月という短い期間ではございましたが、大変に充実した研修を行うことが出来ました。ありがとうございました。

出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 28 年 8 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

鹿児島大学病院

研修医 重久 彩乃 2016 年 7 月

鹿児島大学病院初期研修医 2 年目の重久彩乃と申します。

2016 年 7 月の 1 か月間、地域医療研修として、出水総合医療センターを中心に、高尾野診療所、野田診療所、保健センター、上場診療所等、地域医療に関わる様々な施設にて研修をさせていただきました。

研修 1 週目の高尾野診療所では、外来診療を経験させていただきました。実際に自分で外来診療を行うのは初めてで、短時間で効率よく、しかし重大な疾患を見落とさないように多くの患者さんを診ることの大変さを実感しました。また、今まで経験することのなかった外傷の患者さんの創傷処置を経験することができ、大変勉強になりました。

2 週目の野田診療所では、外来の見学や心エコー、腹部エコー、頸部血管エコー、上・下部内視鏡検査など様々な手技を経験させていただきました。高齢者の患者さんでは多くの基礎疾患を持っており、多岐にわたる幅広い知識と技術が必要とされるのだと思いました。また、訪問診療にも同行させていただき、医療機関への受診が難しい方への診療を学びました。患者さんの生活や家庭環境なども考慮し診療にあたることの重要性を感じました。

夜間一次救急や上場診療所でも研修をさせていただき、限られた医療資源の中で診断や治療を行うことの難しさを感じました。

3、4 週目の院内研修では脳神経外科で研修をさせていただきました。私の研修中にあった手術は数件のみでしたが、その他にも外来、病棟、救急外来対応など様々なことを学ぶことができました。今まで研修してきた病院は急性期病院であったため、出水総合医療センターでは回復期病棟でリハビリまで行っていることが印象的でした。また、看護部、医療安全管理室、地域医療連携室、臨床工学科、臨床検査科、リハビリテーション科等でも研修をさせていただきました。安全な医療を提供するためには多くのスタッフとの協力が必要であり、多職種による連携の大切さ、そのためのコミュニケーションの重要性を改めて感じることができました。

また、今回の研修中にトリアージ訓練や夏祭りにも参加することができ、とても内容の濃い 1 か月となりました。

各施設の先生方やスタッフの方々には大変親切にいただき、とても充実した研修となりました。今回の研修で学んだことを今後の診療に活かせるよう精進してまいります。お忙しい中丁寧にご指導していただき、本当にありがとうございました。

出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 28 年 9 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

福岡大学病院

研修医 上野 茂紀 2016 年 8 月

福岡大学病院研修医 2 年目の上野茂紀と申します。

2016 年 8 月の一ヶ月間、初期臨床研修プログラムの地域医療として、出水総合医療センターで研修をさせていただきました。

鹿児島には行ったことがないということやレンタカーを貸して頂けるということでほぼ初めての運転をわくわくしながら初日を迎えたのを覚えています。出水市は料理の美味しいお店がおおくまた焼酎が実際おいしかったです。夏休み中の学生さんが多かったですがすれ違えば挨拶をしてくれるという驚きもありました。

研修では地域医療ということで院外では診療所で診察、訪問診療、往診、へき地医療や地域保健を院内では選択した科、多職種連携について勉強させていただきました。

診療所では大学病院であまりやる機会がない、外来やエコー、内視鏡検査などこの 1 年半での経験以上のことをさせていただきました。外来は幅広い疾患の知識がないと滞ってしまうと感じました。また診療所の先生方はコミュニケーションの取り方が上手く患者さんの笑顔がとても多いと感じましたし、信頼関係を得ていく上で必要不可欠なスキルだと実感しました。

往診やへき地医療では出来る医療が本当に限られており、身体診察の重要性や緊急性の見極め、迅速な連携が必要だと体感できました。

院内研修では消化器内科研修と多職種（看護・臨床検査・臨床工学・リハビリテーション・医療安全管理・地域医療連携）との連携を勉強させていただきました。仕事において関わりあいのある職種のことを知るというのは円滑に物事を進めるうえで必要なことであり、今回それをほんの少しではありますが知れたことはとても有意義でした。

この地域医療を通じて、プライマリケアの重要性や在宅医療、慢性疾患の管理、患者さんの QOL とは・などいろんなことを勉強させてもらいました。そして今までがほんとに無知だったなあと感じました。今後のモチベーションアップにとってもなった 1 ヶ月でした。

最後になりましたが大変お忙しい中、研修に時間を割いて下さった方々に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 28 年 9 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

九州大学病院

研修医 小林 裕介 2016 年 8 月

九州大学病院初期臨床研修医 2 年目の小林裕介と申します。平成 28 年の 8 月 1 日から 1 か月間、出水総合医療センターおよび医療センターと連携する高尾野診療所、野田診療所で研修をさせていただきました。

第 1 週目は高尾野診療所で研修をさせていただきました。自分は初期臨床研修が 2 年間とも大学病院であったため、既に診断の付いた症例に対する集学的な医療は数多く経験することができていたのですが、未だ何も診断の付いていない初診の患者さんの診察は市中病院で救急救命センターを 1 か月間経験して以来しばらくぶりのものでありました。医師国家試験で得た知識と短期間ながら救急救命センターで学んだ経験を生かして、実際に慢性疾患の外來を高尾野診療所の指導医監督の下に経験させていただきました。はじめは緊張しましたが、限られた時間を集中して問診、身体診察、検査依頼、内服処方までさせていただき、次第に診るべき要点が分かってきました。

第 2 週目の野田診療所でも初診の患者さんの診察を任せられました（研修医なのでもちろん指導医のフォローがあります）が、1 週目より自信をもって診察できていたように思います。他にも印象に残った事例は在宅医療（往診）です。地域住民の方々が営む日常生活や居住する地域の特性に即した医療を学び、実践させていただきました。

第 2 水曜日には出水保健センターで研修させていただき、地域保健、健康増進への理解を深めました。実際に 3 歳児健診（出水の場合はしっかりと成長発達を診るために 3 歳半健診）に参加させていただき、子どもたちと触れ合う機会を持たせていただきました。

また、月 2 回の上場診療所への診療や夜間 1 次救急診療も経験させていただきました。救急外來オンコールでは転院搬送時の医師同伴として熊本労災病院までの移動にも協力させていただきました。

第 3 週目以降は出水総合医療センターの外科で研修させていただきました。毎日 1~2 例の手術にすべて入らせていただき、腹腔鏡操作や縫合結紮等の外科手技をお手伝いさせていただきました。手術症例もまた、大学病院とは異なり頻度の高い疾患の手術を多く経験させていただきました。ありふれた疾患といっても患者さんそれぞれが抱えていらっしゃる背景は異なる訳で、先生方は医学的根拠に基づき一人ひとりの患者さんに対し適切な判断を下し治療方針を提案していました。出水総合医療センターの研修では外科以外にも看護部や検査部、リハビリテーション部、医療安全管理部といった他職種の方々のお話を聞く機会も設けていただきました。

終わってみると 1 か月は早く過ぎ去ったように感じますが、1 日ずつ振り返ってみると 1 か月を通して多くの貴重な経験ができたことを実感しました。学んだことを大学病院の研修、さらには今後の医者人生に生かして、多くの方に喜んでいただけるような医療を提供したいと思います。

最後になりますが、数日単位とそれぞれ短い研修期間であるにも関わらず熱心に指導してくださった出水総合医療センターをはじめとする各診療所の先生方、スタッフ、そして受け入れてくださった地域住民の皆様にご心から感謝のお礼を申し上げます。ありがとうございました。

出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 28 年 10 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

熊本大学医学部附属病院

研修医 石松 翔子 2016 年 9 月

熊本大学医学部附属病院地域医療研修プログラムとして 9 月にお世話になりました、研修医 2 年目の石松翔子と申します。1 か月間という極めて短い期間の中で、出水総合医療センターを中心に、野田診療所・高尾野診療所・保健センター・上場診療所にて研修させて頂き、本当にありがとうございました。

私は熊本県出身で、鹿児島は隣の県ではありますが、鹿児島には 1 度大学の時に友人たちと旅行で訪れたことがあるだけでした。地域医療をどの病院で研修するかを決めるときに、自分ではいまいち各病院での研修の違いが分からなかったため、周りの研修医の先輩に相談したところ、出水をお勧めする方が多かったので出水総合医療センターを選ばせていただきました。勧められたとおり、出水総合医療センターを選択してよかったと思っております。

私の地域医療研修はまず野田診療所からスタートしました。野田診療所では自分のこれまでの研修医生活の中で一番多く内視鏡やエコー検査をさせていただきました。ほぼ初心者に近い私でしたが、内村先生がマンツーマンで後ろからずっと指導してくださり、重要臓器を簡単にですが自分でみるできるようになったと思います。高尾野診療所では研修医生活で初めて外来診療をさせていただきました。定期フォローの方が主でしたが、そのような方をどのように診察するべきかが意外と分からず、時間がかかってしまい、患者さんをお待たせしてしまうことも多々ありましたが、西元寺先生のご指導の元、患者さん各々の診察の重要なポイントを考えて診察するようになり、まだまだではありますが最初に比べるとスムーズ外来を回せるようになったと思います。

上場診療所では身近に病院どころか医師がいないという正にへき地医療の在り方をみることができました。ほとんど医療器具がない状況で、問診と身体診察がいかに重要かということを再確認しました。

院内研修では循環器内科を中心に、看護・臨床検査・臨床工学・リハビリテーション・医療安全管理・地域医療連携などの講義や体験をさせていただきました。循環器内科では初日から患者さんを 2 人もち、自分で治療方針を考えて先生に相談しながら治療を進めていくことができました。お忙しい中、検査手技や検結果、薬の選択も含めた治療方針などについて丁寧に教えていただき、大変勉強になりました。また、今までほとんどみる機会がなかった様々な職種の方々のお仕事についても講義・体験させていただきました。非常に貴重な経験をさせていただきました。

最後になりましたが、ご多忙の中、丁寧に指導いただいた先生方、関係者の皆様方、誠にありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。今回経験したこと、学んだことを今後の自分の医師人生に活かせるように、これからも日々勉強を怠らず精進していこうと思います。

出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 28 年 10 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

鹿児島大学病院

研修医 下田 祐郁 2016 年 9 月

鹿児島大学病院初期臨床研修医 2 年目の下田祐郁と申します。

2016 年 9 月に地域医療研修として、1 か月の間、出水総合医療センターを中心に地域医療研修をさせていただきました。実は以前、医学部学生時の地域医療実習の際にも、出水で実習をさせていただいたことがあり、学生の時とはどう違いを感じられるかと思い、こちらでの研修を希望させていただきました。この 1 か月の研修では、院外研修として野田診療所、高尾野診療所での診療業務、野田診療所での夜間一次救急、上場診療所への往診、出水保健センターでの健康診査に携わりました。院内研修では消化器内科での研修と救急外来での診療に携わり、多職種との連携を学ぶために医療安全管理室、地域医療連携室、臨床工学科、回復期病棟、臨床検査科、リハビリテーション技術科等でお世話になりました。いままでの研修では未経験だった検査や症例に出会うことも多々あり、勉強させていただきました。また、病態体験や他職種の方々に業務内容を教えていただく機会などにも恵まれ、疾病理解や他職種の業務に対する理解が深まったように感じます。また、外来での診療に携われたことは、特に貴重な経験になったと感じています。初めての経験だったので、戸惑うことや手間取ることも多かったのですが先生方だけでなく、患者さん方にも協力と指導をいただき、ありがたかったです。

各医療機関で診療をしていくなかで、私たちに求められている医療のなかに共通するものと、違いがあるものがみえてきたように感じます。外来では必要な医療のほかに、求められている医療を把握することも大事だと学びました。ただ、医師だけではそれを把握するのは難しいこともわかりました。医師と患者との関係性が大事であることはもちろんですが、保健センターでの他職種カンファレンスや、各医療機関における医師と他職種との連携をみる機会に恵まれ、それぞれが各々の専門性をもって情報収集をしており、それを共有することでより良い医療が提供している様子をうかがい知ることができました。

1 か月間という短い期間での研修ではありましたが、様々な場で多くの事柄を学ぶ機会に出会えたように思います。最後になりましたが、大変お忙しい中、ご指導いただいた皆様方に重ねて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 28 年 11 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

熊本大学医学部附属病院

研修医 加藤 麻衣 2016 年 10 月

熊本大学病院初期研修医 2 年目の加藤麻衣と申します。地域医療研修プログラムのため、10 月に研修させて頂きました。

1 か月間の研修の間、野田診療所、高尾野診療所、出水保健センター、上場診療所と院外の様々な場所を訪れ、また院内でも脳神経外科をはじめ看護部、臨床工学科、臨床検査科、リハビリテーション技術科と非常に多岐に渡り勉強をさせて頂きました。

最初の 2 週間は、2 つの診療所での外来診療と検査が主な研修内容でした。地域の特色として高齢者が多いことは想像しておりましたが、実際に見てみると 80 歳代や 90 歳代の患者が多く、予想よりも平均年齢が 10 歳ほど高かったことが印象的でした。また、これまでの大学病院では内視鏡等の検査手技や外来診療を自ら行う経験はなかったため、最初はどのように振る舞えばよいのか分からず戸惑いもありました。しかし慣れてくると手は少しずつ動くようになり、患者との世間話から病歴・生活歴以外にも社会的背景のプロブレムが見えてくるようになりました。もともと高齢のため複数の慢性疾患を抱えている患者も多く、そういったプロブレムの多い場合のアプローチの仕方を学ぶことができ、大変貴重な経験となりました。

上場診療所でも外来診療を経験し、前述の診療所よりさらに限られた医療資源で地域住民の健康を支えている様子を経験させて頂きました。

そして出水保健センターでは、乳幼児健康相談、3 歳児健診に参加させて頂きました。ここでは保健師、看護師、歯科衛生士、臨床心理士など多職種の方々が支援の必要な子供や家庭を見逃さないよう細かくチェックしており、医療的支援を要する家庭だけでなく、母親の日常の子育ての悩み等も気軽に相談できる場所として機能していたことが印象的でした。

後半の 2 週間は出水総合医療センターの中での研修でした。脳神経外科を選択させて頂きましたが、ここでも高齢の方が多く、さらに脳血管障害の後遺症を抱えている患者が大半でした。介護する側の家族の年齢も予想していたよりもずっと高く、日本が直面している高齢社会に伴う問題を改めて認識させられました。また、急性期の治療はもちろん、回復期病棟では社会復帰に向けての課程も勉強させて頂くことができ、非常に新鮮でした。医師の側からだけでなく、看護部、リハビリテーション技術科など多職種連携についても経験させて頂く機会を設けていただき、チーム医療についての理解をいっそう深めることができました。

また、子供の頃は出水に住んでおり、今回の研修はちょうど鶴が渡来する時期でしたので、約 15 年ぶりにその姿を見ることができて大変嬉しく思っております。夜は星空が綺麗で、仕事を終えて空を見上げるのが楽しみでした。自然が美しいこの地で充実した研修を送らせて頂いたことに心より感謝しております。1 か月間お世話になった皆様、本当にありがとうございました。

出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 28 年 11 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

鹿児島大学病院

研修医 浜田 恭輔 2016 年 10 月

この度、出水総合医療センターを中心に 1 か月間、地域医療研修をさせていただきました。高尾野診療所、野田診療所での診療、上場診療所でのへき地医療、出水保健センターでの地域保健、診療所や医療センターでの夜間救急、院内での多職種研修など、非常に充実した研修で本当にあつという間でした。

この 1 か月間の研修では、各診療所及び院内での総合内科研修など、外来診療に携わる機会を特に多く得ることができました。これまで外来診療を経験する機会はほとんどなかったため大変貴重な経験でした。とはいえ、やはり初めての外来診療に慣れず、高齢の患者さんが抱える何らかの慢性疾患のフォローだけに終始躍起になってしまっていました。しかし、慢性疾患のフォローはしつつ、その上で拾い上げるべき所見や患者さんの言葉がないかを的確に見つけ出すという点において、先生方の並々ならぬ診療技術と熱意、そしてコメディカルの方々との協働には大変驚かされました。同時に、問診や診察の重要性、所見に基づいた臨床推論、必要な検査や患者指導など、これまで「何となく」程度にしか考えていなかった自分の姿勢を猛省するよい機会ともなりました。おかげさまで外来診療に限らず、今後自分が行っていくべき診療の型が多少なりとも形成されたように感じています。

地域保健研修の際にも、内科検診や歯科検診を担当する先生方だけでなく、保健師や臨床心理士の方々など、実際に受診者と接した多職種の方々全員で、注意が必要な子どもや家族をピックアップし対応を協議されていました。抜けがないよう幾重にも確認がなされ、1 人 1 人見落とすことがないよう全職員で取り組んでいる姿が印象的で、このようにして地域住民への福祉、医療が成り立っているのだと実感しました。

今回の研修では患者さんの看取りにも立ち会う機会がありました。高齢者世帯、独居、老々介護など、出水に限らず高齢化が進む日本全体で深刻な問題となっていますが、そのような状況下で医療を展開するにあたり、自分たちが今後どのように患者さんや家族をフォローしていくべきなのか考えさせられることとなりました。地域福祉の取り組みについても知る機会をいただき、今後、より福祉と医療とが密な関係をもって地域に貢献すること、そのために自分たち医師も日頃からの患者背景の把握、地域連携との密な情報交換、多職種研修会への参加などを実践していく必要があると感じた次第でした。ここで得た経験を糧に、今後も日々精進していきたいと思えます。

10 月で気候もよく、秋を愛で、鶴も見て、研修以外の時間も大変充実させることができました。ここ出水の地で研修できたことに感謝しつつ筆を置きます。お世話になりました皆様、本当にありがとうございました。

出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 28 年 12 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

公立八女総合病院

研修医 堤 真宏 2016 年 11 月

11月に研修をさせていただきました、公立八女総合病院の堤真宏と申します。私は、福岡県の久留米市で育ち、大学も久留米大学を卒業し、研修も久留米の隣の八女市で行っています。今回出水総合医療センターが地域医療研修で選択できることとなり、まったく別の環境を経験したいという思いもあり、研修をさせていただきました。

1か月間、様々な部署でどれも新鮮な経験をさせていただきました。簡単ではありますが、各研修先について研修内容の一部を書かせていただきます。

まず、野田診療所ではエコーや内視鏡の検査を実際に経験させていただき、スクリーニング検査をする上でのポイントを的確にご指導いただきました。高尾野診療所では、実際の外来診療を経験させていただきました。実際の再診外来は初めてで、限られた時間で必要な情報を聞き出しそれに対して適切に対処することは難しく、自分の知識不足も実感しました。また、初めて訪問診療に同行しました。交通手段がない方や、在宅で療養を続けている寝たきりの患者さんの診察をし、今後さらに高齢化の加速や制度改革で在宅医療の必要性はさらに高まり、体制づくりの重要性を感じました。

出水保健センターでは、健診や相談事業で多くの幼児と接する機会をいただきました。このような取り組みで、子育ての不安軽減や発達障害などの早期の拾い上げができ、安心して子育てができる環境づくりがなされていることを知りました。

院内では脳神経外科で研修し、外来、救急、手術と様々な経験をさせていただきました。頭痛や、外傷の初期対応や、脳血管障害の患者さんの急性期の管理から回復期のリハビリ、その後の社会復帰に向けての流れなどとても多くのことを学びました。特に、深夜からの緊急手術の経験は印象深かったです。前医が対応困難とのことでの転院搬送で、地域医療が抱える医師不足の問題も垣間見ました。また院内の多くの部署でも研修をさせていただき、身体拘束や片麻痺の体験など普段はなかなかできない経験もさせていただきました。

上場診療所では、本当に医療資源がなく驚きました。すぐ検査ができることに慣れていて、問診と身体診察だけで患者さんの状態を判断せねばならない、へき地医療の実際を体験させていただきました。

ここに書き切れないほどに多くの経験をさせていただき、とても密度の濃い1か月を過ごすことができました。最後になりますが、日常業務のお忙しい中、研修に時間を割いていただき、とても丁寧にご指導をいただきました先生方、スタッフの皆さまに御礼申し上げます。今後の研修や医師としての人生に必ず生かしていきたいと思っております。ありがとうございました。

出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 28 年 12 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

九州大学病院

研修医 平木 嘉樹 2016 年 11 月

九州大学病院研修医2年目の平木嘉樹と申します。11月の1か月間、地域医療研修をさせていただきました。

私は鹿児島市出身で、大学までは鹿児島市内で過ごしました。出水市には過去に一度来たことがありましたが、ツルを観たことはありませんでした。11月での研修だったこともあり、今回初めて「出水のツル」を観ることができ、大変嬉しく感じております。

今回の研修では、高尾野診療所、野田診療所、上場診療所、出水保健センター、そして出水総合医療センターで研修させていただきました。

高尾野診療所では主に外来診療を経験しました。診療所での外来診療は初めての経験だった上に、今まで電子カルテでの診療録記載の経験しかなく、初めての紙カルテ記載でかなり戸惑いましたが、西元寺秀明先生に優しくご指導を賜り、1週間ほどで何十人もの慢性疾患の外来患者さんを診察するという、貴重な経験をさせていただきました。

野田診療所では、内村忍先生ご指導のもと、外来診療や心エコー、頸部エコー、腹部エコー、上部・下部消化管内視鏡検査の補助を経験しました。エコー検査では実際にプローブを握らせていただきながら検査手順を繰り返しご指導いただき、また上部消化管内視鏡検査では最終的に口から十二指腸までの挿入を単独でさせていただき、貴重な経験をさせていただきました。加えて、いままでほとんど経験のなかった訪問診療に度々携わることができ、地域医療における訪問診療の重要性を実感いたしました。

上場診療所では、宗清正紀先生のご指導のもと、外来診療の補助を経験しました。加えて、患者さんの健康相談も経験しまして、その過程で患者さんから病態を聴取することの難しさ、奥深さを実感しました。また、患者さんとの雑談の中から、上場小学校にドクターヘリが到着した際の話を知ることができ、へき地医療における切り札としてのドクターヘリの重要性について再認識いたしました。

出水保健センターでは、母子健康相談や3歳児検診を経験しました。普段ご高齢の患者さんと接することが多く、小児の患者さんと接した経験がほとんどないこともあり、エネルギーに満ち溢れつつも繊細なお子様達に圧倒されました。

後半の出水総合医療センターでは、消化器内科で研修しました。主に上部・下部内視鏡検査について、藤田浩先生をはじめとする先生方にご指導いただき、いくつかの症例については実際に内視鏡手技を経験させていただきました。お忙しい中、検査手技や所見の判断について丁寧にご指導いただき、非常に勉強になりました。また、看護部、臨床検査科、臨床工学科、リハビリテーション技術科、医療安全管理室、地域医療連携室で講義や体験をさせていただきました。普段出しているオーダーの先で、実際に行われている検査手技などを体験することができ、より一層理解が深まる、貴重な経験となりました。

最後になりましたが、お忙しい中ご指導いただきました先生方、関係者の皆様、そして診察させていただきました患者さんに深く御礼申し上げます。今回の経験を、今後の臨床に活かせるよう、残り少ない初期研修や来年度から始まる後期研修を頑張っていきたいと思っております。

出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 29 年 1 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

鹿児島大学病院

研修医 今村 研介 2016 年 12 月

2015 年 4 月より始まった 2 年間の初期臨床研修も、1 年と 8 か月が経過し、残り 4 か月になろうとしています。2 年間の初期臨床研修期間は、これから医療に携わらせていただく期間からしてみれば、短いように感じますが、大学を卒業し一医療者になる大事な期間であったと思います。この 2 年間で多くのことを指導医や上級医の先生方、看護師さんやスタッフ、そして患者さんとご家族に教えていただきました。

国家試験に合格することができ、今後始まる医療人生に胸を躍らせながら始まった研修医生活でしたが、国家試験だけの知識では何もできなく、不安で仕方ない毎日でした。患者さんにとって、とても頼れる医療者ではなかったと思います。始まった当初は薬の名前を覚えることから、オーダーや指示出しの仕方、医療の流れを理解するのに必死でした。また、国家試験では今後の治療を a から e の 5 択で選ぶことができますが、実際の現場では答えは一つではなく、患者さん一人ひとりに合った選択肢があり、しかしそれが治療継続していくにあたり必ずしも最良の選択肢でない場合もあります。

私は、鹿児島大学病院の初期研修「桜島プログラム」で研修をさせていただきました。「桜島プログラム」の利点は、自分が希望する診療科や協力病院で研修できることです。その中で 1 年間で大学病院で、もう 1 年間で協力病院で研修させていただきました。大学病院では稀な疾患や、高度な医療に携わることができ、上級医の先生方も多く、医療を初め医療人として大切なことを教えていただきました。協力病院では、common disease を中心に多くの症例や手技を体験させていただきました。1 つの科に研修医 1 人のことが多く、先生方に医療を初め個人的な悩みも相談しやすい環境であり、また多くの先生の医療スタイルを学ぶことができました。大学病院と協力病院で研修でき、学ばせていただいたことは、とても勉強と自信になり、また今後医療人生において大切なものになったと思います。

まだ医療者になって日は浅いですが、医療従事者の一員になれて良かったと思います。毎日自分の未熟さを実感させられ、落ち込むときや後悔することもあります。患者さんやご家族の笑顔を見ることができたときは、本当に幸せな気分になります。まだまだ一人前には程遠く、春からは 3 年目となり責任も増してきますが、今後も悩み勉強しながら励んでいきたいと思っています。

出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 29 年 1 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

北九州市立医療センター

研修医 片山 由大 2016 年 12 月

北九州市立医療センター初期臨床研修医 2 年目の片山由大です。地域医療研修プログラムとして 12 月に出水で研修させていただきました。

私は福岡県出身で高校まで福岡で生活し、大学生活 6 年間は高知に住んでいました。九州出身ですので、九州の各県には行ったことがあったのですが、出水市には今回初めて行かせていただきました。高速のインターチェンジを降りた時、「田舎だなあ」と思いましたが、関係者の皆様がたくさんの事を紹介し、教えてくださったので、出水の良さが分かり、楽しく充実した 1 か月間を過ごすことができました。

研修としては、高尾野診療所、野田診療所、上場診療所、出水保健センター、出水総合医療センターで研修させていただきました。高尾野診療所、野田診療所では人生初の紙カルテを経験させていただき、頸部エコー、心エコー、腹部エコー、上部消化管内視鏡など様々な検査手技を指導させていただきました。往診や上場診療所での診察といったような医療者側からの積極的なアプローチを行うことによって、患者の満足度が上昇し、より密接な医師・患者関係を築くことができました。また、上場に行かせていただいた際に、歩行者の方が挨拶してくださった姿を見て、地域のまとまりをととも感じました。

出水総合医療センターでは外科を中心に研修させていただきました。手術に参加させていただき、楽しい研修でした。また、医療安全管理室、感染対策室、地域医療連携室、臨床工学科、看護科、臨床検査室、リハビリテーション技術科でそれぞれ研修をさせていただきました。普段、あまり意識していない多職種の方々の仕事内容を実際に見学や体験させていただくことで、医療連携、チーム医療について改めて考え直すことができました。多職種の方々が支えあうことで現在の医療が行えていると実感しました。

今回の研修を通して、地域医療のすばらしさを感じることができたと同時に、地域医療を継続していくことの難しさを感じました。例えば、往診を求めている患者は多くいると思いますが、それに十分に対応できるだけの医療者の数が確保できていないだけでなく、現在往診を行っている先生も中高年の方が多く、往診を受け継ぐ新しい人材が必要となっています。研修が終了した医師は地元に戻る傾向が強いと思うので、その地域出身の医師を輩出する必要があると感じました。若いひとに医療職をアピールし、医療職を目指してくれるひとが多くなればと思います。

最後に、研修医に対して熱心に指導してくださった先生方や医療関係者の皆様に御礼申し上げます。今後地域に携わることがあるかもしれないので、その時には今回の研修で学んだことを活かしたら良いなと思います。

出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 29 年 2 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

北九州市立医療センター

研修医 谷口 寛 2017 年 1 月

北九州市立医療センター初期研修医2年目の谷口寛と申します。地域医療研修プログラムとして 2017 年 1 月に 1 ヶ月間、出水市で研修させて頂きました。前半の 2 週間は野田診療所、高尾野診療所、出水保健センターで、後半の 2 週間は出水総合医療センターで研修させて頂き、研修期間中に 2 回上場診療所でも研修させて頂きました。

私は福岡県出身で、鹿児島県に今まで足を踏み入れたことはなく、今回が初めて鹿児島県を訪れる機会となりました。研修初日は、初めての地で研修するという不安と緊張であまり夜も寝付けなかったことを思い出します。蓋を開けてみれば、指導して下さる先生方をはじめ、出水の方々はみんな優しく、緊張感なく充実した研修を送ることができました。

野田診療所では、腹部エコーや心エコー、上部消化管内視鏡検査などの検査や初診の方の外来、往診での診察を経験させて頂きました。エコーや内視鏡検査は今まで見学のみで、実際に自分で行ったのは初めてでしたが、手取り足取り教えて頂き、非常に良い経験ができたと思います。

高尾野診療所では、慢性疾患のある方の外来や外傷患者や皮膚疾患患者の処置などを経験させて頂きました。外来は 1 日 20 人ほど担当させて頂き、今まで私が経験してきた以上の数を 3 日間で経験させて頂いたと思います。

出水保健センターでは、母子健康相談や 3 歳児健診を経験させて頂きました。現場では保健師や看護師など多職種の方々が、悩みを抱えている母親に適切なアドバイスをしている姿が見受けられ、よりよい育児環境を構築するために多くの方が関わっていることを改めて実感しました。

上場診療所では、へき地医療を経験させて頂きました。医療機器が豊富ではない環境下での診察は非常に緊張しましたが、問診、身体診察の重要性を改めて考えさせる良い機会になったと思います。また、これは往診でも実感したのですが、診察に来られた方々はみんな診察を待ち望んでいた様子で、診療所は地域での医療を支える上で必要不可欠なものであると感じました。

出水総合医療センターでは、総合内科を中心に、医療安全管理室、地域医療連携室、リハビリテーション技術科、臨床検査科、臨床工学科、看護部といった多職種の方の業務を研修させて頂きました。総合内科では、初診の方の外来を担当させて頂きましたが、症候からの鑑別や診察方法がまだまだ不十分であることを痛感しました。今回の経験を活かして、今後より一層勉強していきたいと思います。また、多職種の方の業務を実際に経験することで、チーム医療の重要性を学ぶことができました。

最後になりましたが、ご多忙の中熱くご指導して頂いた先生方をはじめ、関係者の方々、そして診察させて頂いた患者の皆様に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。今回の貴重な経験を活かして、今後の診療にも取り組んでいきたいと思っています。

出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 29 年 3 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

公立八女総合病院

研修医 合原 水月 2017 年 2 月

地域医療研修の 1 ヶ月も早いものでもう終わろうとしています。私の故郷である福岡県八女市は、母校の小学校が閉校になったり地区に唯一の診療所が医師の確保ができず閉鎖されたりと、少子高齢化に伴って医療環境が厳しくなりつつあります。そんな故郷の医療に貢献したく医師を志しましたので、出水市での地域医療研修はとても楽しみにしていました。

野田診療所、高尾野診療所、上場診療所で診療に参加させていただきましたが、先生方の圧倒的な診療スキルはもちろん、先生方や診療所スタッフさんと地域の方々との間にある厚い信頼関係には特に強い感銘を受けました。独居であったり、通院が困難であったり、その他にもいろいろな背景を抱えている患者さん一人ひとりに寄り添うような、そして時には教科書的な内容から一步踏み出したような診療を目の当たりにして、私が将来の目標とする医療がそこにあるように感じました。

出水総合医療センターでは脳神経外科で研修させていただき、急性期脳卒中を始め痙攣や意識障害など、幅広い症例の診療を経験できました。自身の研修病院には無い回復期病棟での診療にも僅かながら参加する機会を頂き、貴重な経験となりました。

話題が大きく変わりますが、私は写真やカメラが大好きです。実は、出水市に渡来する鶴の写真を撮りたい！と研修担当の先生に無理を言って、半ば強引に 2 月に地域医療研修の予定を組んでいただいた経緯があります。週末など時間があれば夜明け前から何度も撮影に出かけました。素敵でした。感動しました。「出水の美しい風景+優雅に飛翔する鶴」という贅沢な被写体を撮る機会を沢山与えていただき、私は今、本当に幸せです。

興味が有って調べたところ、古くは鹿児島県がまだ薩摩藩だった頃から鶴を大切にする運動が有ったそうです。（地元の方々をご存知でしょうが、感動しましたので）一時期は鶴が出水市から消えた時期もあったようですが、地域の方々の努力で今のようなたくさんの鶴がやってくるようになった経緯は、とても感心しました。鶴の観測所で見た紹介映像のなかに、中学生の「鶴クラブ」の人たちが、早朝から凍えるような寒さの中で黙々と鶴を数えている場面、傷ついた鶴を保護し、処置を施している場面があり、胸が熱くなりました。病院でお会いする地域の方々皆さんがとても暖かく、その優しさがこれほど多くの鶴を呼び寄せるのだろう、と感じました。

地域医療研修と同時に、もうすぐ 2 年間の初期臨床研修も終わろうとしています。私の研修病院である公立八女総合病院でも、ここ出水市でも、患者さんや地域の方々に日々いろいろな事を教えていただきながら、そして支えていただきながら過ごした日々であったと感じます。自分がおかれている環境に感謝しつつ、今後も研鑽に励んでいきたいと思えます。

出水総合医療センターにおける初期臨床研修（選択科目）を終えて

（平成 29 年 4 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

福岡大学病院

研修医 宮山 隆志 2017 年 3 月

福岡大学病院初期研修医 2 年目の宮山隆志と申します。

2017 年 1 月からの 3 ヶ月間、出水総合医療センター消化器内科にて研修をさせていただきました。

研修 1 年目は大学病院で過ごしてきたため市中病院で幅広い疾患を経験したい、内視鏡検査をはじめとした手技を習得したい、鹿児島大学出身であり鹿児島が懐かしい等の思いから出水総合医療センターでの研修を選択させていただきました。

3 ヶ月を通して、逆流性食道炎、出血性十二指腸潰瘍、結腸憩室炎などの消化管疾患、肝性脳症や総胆管結石、急性膵炎などの肝胆膵疾患と幅広い症例を経験することが出来ました。大学病院と異なり腹痛や吐血、下血といった主訴で来院される患者さんを診断、治療していく一連のプロセスを学ぶことができました。また、内科、外科の連携がスムーズであり、各診療科の垣根の低さの大切さを感じました。

上部消化管内視鏡検査や下部消化管内視鏡検査では先生方から丁寧な御指導いただき、また真近で先生方の高度な内視鏡技術を拝見するなかで、微弱ではありますが手技の向上が図れたのではと思います。ただ、内視鏡検査において技術はもちろんですが、それ以上に異常所見を発見し診断、治療方針を下していくことの重要性を痛感しました。

総胆管結石や急性胆管炎等に行われる内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)は福岡大学病院では消化器外科で実施されているため、今回の研修で初めて経験することができ、大変勉強になりました。3 ヶ月間を通して多くのことを学ばせて頂き、充実した研修を行うことができました。

最後になりましたが、藤田先生、軸屋先生、樺山先生、稲津先生には丁寧なご指導をしていただき大変お世話になりました。また、いつも声をかけ気遣って下さった宗清先生ありがとうございました。

そしてサポートして頂いた消化器センターの看護師さんをはじめコメディカルの方々、職員の皆様、感謝申し上げます。4 月からは福岡大学消化器内科に入局を予定しています。ここで学んだことを生かして精進していきたいと思っています。3 か月と短い間でしたが、本当にありがとうございました。